



一般教育科目

# 科の動き

現在一年から四年迄、学生約二〇〇名を擁し、新時代の要請とも云うべき「社会福祉学」の研究に従事してゐる。

一、科目について

英 語	人 文 科 学	社 会 科 学	自 然 科 学	科 目	単 位	備 考			
	一〇	大学生活への指導 心理学 国語・国文学史 哲学	社会学 政治学 法学 統計学				数学 物理学 生物学	二	必修 他に選択科目はあるが本学科として上記三科目の選択を望む

目	専 門 科 目				目	
	演習及び実習	調査	処置及び指導	基礎理論		
職業指導・補導	社会福祉学演習	社会調査・統計	児童福祉施設経営研究 社会福祉事業施設研究 ケルースワータ グループワーク	公衆衛生 児童福祉施設経営論 社会福祉事業施設研究 児童福祉施設研究 ケルースワータ グループワーク	社会福祉事業概論(社会福祉事業史を含む) 社会立問題 社会福祉事業行政 社会福祉事業行政 社会福祉事業行政	六 四 二 二 二 二
遊高平棟菅 佐月賀崎支 敏東茂那 彦一孟穂子	高月東一	池田	大吉田 前田 松島 松島 佐藤	未定 木田 木田 小山 未定 早崎	八洲	三 三 三 三 三 三

専門学科目及び担当者

体 育	一般家政学
体育実技 体育理論	家族の食物 児童学 家庭管理
一 三	二 四 三
必修	必修

卒業論文・自由選択科目	四	四	四	四
家新精社都 族開神会市 論学衛想農 族論生史村 論学生史学	二	二	四	四
未定	小山栄三	井村恒郎	高橋誠一郎	有賀喜左衛門
各教授				

二、研究活動

1 社会福祉事業実習

最髙学年の学生全員を、福祉事務所、各種社会福祉事業の施設及び各種関係研究所、各職業安定所、子供会等々に一年間配属し、実習指導を行なっている。

2 社会福祉施設研究

三年生になると、全員毎週半日を福祉施設研究に費し各種の養護施設、社会施設、生活保護施設、社会教育等を見学し、研究しつゝする。

3 クラブ活動

在学生全員が、社会福祉科クラブを組織しており、本学科教授と一体となって、講演会、座談会、討論会等を実施している。又学生有志が、種々の研究会を構成し夫々の問題によって研究生活を続けていく。現在ほとんど研究会が増加しており、今後の活躍が期待される。昨年中特にめざましかったのは、子供研究会であり、研究室の先生を中心に、非常な成果を収めた。

4 ゼミナール

上級学年の学生を、夫々の問題によって、グループに編成し、

各教授担当の下に、討論式による研究を行なっている。

5 機関誌の発行

研究発表、及び親睦、連絡をかねた機関誌を教授、卒業生、在校生が一体となって毎年一回発行する事になったことは、大変喜ばしい事であり、発展を心から祈っている。

6 若葉子供会

在学生の有志者によって自発的に組織されたもので、「子供会」のモデルとして育成指導がなされて居り、地域社会に貢献している。三月中旬には四年生の送別会を、泉会館で教授、在学生と共に、新しき門出にある方々を祝福し、心からの送別の会を催す予定である。既に一月二十日を期限として、素晴らしい卒業論文の数が提出された。又三年生以下は、未求の希望に燃えて、科の計画に余念がない。

わかば子供会

此の間（一九五二年五月）産声をあげたばかりと思えた「わかば子供会」は「蔭になり日向となって、種々御援助下さった先輩、学生、その他関係者の愛に満ちたよりよき育成に依って二回目のお正月を迎える事が出来ました。

週に二回の子供会をしていましたが、回を重ねるに従い地区の母親達から喜ばれ、回教を増してほしいとの要望に応え、又学生（四年生有志五名専任）の熱心な発意に依って現在では月水金の三回開いております。しかし、回教を増せば毎日でもという声さえ出てくる有様で嬉しい悲鳴をあげております。満三才から六才までを幼児部（六十三名）、小学校一年から六年までを見童部（二十余名）併せ



て八十三名から百名の子供を相手に、遊戯、歌の稽古、図工作、お話、紙芝居、幻燈、学習指導（英会話、各学年に応じた学習）、ゲーム、協議会等々を行なっております。その他特別行事として、羽根つき大会（一月）写生会（五月）、遠足キャンプファイアーの夕（八月）、作品展示会・年忘れ遊び会（十二月）、お別れ会（四年学生の卒業に際して）など、盛り沢山のプログラムがつくられています。遠足、キャンプファイアーの夕には親子、指導者共々に楽しみあい、

和やかな雰囲気は母親と子供の間、子供同志間に、指導者と子供の親との間に漂い、最大の子供達の楽しみとなっております。三カ月に一回母の会を開き、会に対する希望、子供を通して表われた結果の話し合い、相談会、講演会（子供養育上の問題について）が催され、時には母親の相談にもなっております。

一方、指導にあたる学生達は、専門の先生を囲み、問題の子供について相談会を持ちたり、紙芝居の台本を借りて歩いたり、内容の検討をしたり、授業の合間をみては自ら研究しております。しかし寺院の本堂を拝借しているため障子を破いたり、畳を汚したり、陰には指導者側の気兼ね精神的、物質的苦勞があります。一日も早く当学科の施設として存分に使用出来る様な建物がほしいと念願しておりますので、今後多大なる御支援をお願い致します。

## 目 白 祭

昭和廿八年度の第一回目白祭に於て、我々社会福祉学科として児童福祉関係を中心とする左の様な事を計画した。

◎ 広く一般児童の福祉増進を計る為の母子福祉センターの必要性

◎ 各児童福祉施設の写真及び作品展展示

◎ 本学科学生の行なっている若葉子供会の現状等

之等を目白祭を通して、広く一般の人々に、より理解し再認識してもらおうべく我々の研究の一端を紹介し、且つ一般の児童福祉増進を計る事にした。

次に各研究発表の内容の概略を紹介すると、



一、母子福祉センターの必要性  
 今日児童に関する問題は、社会問題の重要な部分をなしている。それは児童が健全に養われ、育成されるべき全ての環境が、敗戦に依る社会混乱によって損われた事に基因し、その解決は単に児童に遊び場を提供するだけではなく、その身心の健康を増進させる事が一般社会人の義務であり、殊に親たるの義務であろう。児童厚生施設は対象を要保護児童に限らず、広く一般児童福祉行政に於ける積極的な面を負うものとして重要な意味を持つものである。又児童を健全に育成すべく母親の知識向上は必然的に必要となる。そこで、我々社会福祉学科としてこの問題を取り上げた次第である。

地域社会の一例として、山手住宅地である本学附近の実状を調査した、内容の詳細は略すが、幼児数約八百名中二百名を除いた他は、遊び場を求めて路上に、或いは家庭に残される結果となる。又保護者の声として、経済的困難と附近に保育園の不足の声が高く、更に母親の知識向上の機関の要望が多かった。  
 そこで我々は、それらの実状に出来る丈、即する為に理想的な母

子福祉センターを設計し1/30の模型を作った。又近き将来に本学内の建物を利用し具体化させる計画も樹ててみた。この機会を通じて、これらの施設の実現可能のための協力を切望したのである。

二、施設児童の写真及び作品展示  
 何らかの形で社会から保護を要する子供達の生活実態の一面、及び作品を展示する事に依り、この恵まれない子供達に対して広く一般の人々の関心を博、より理解を深めると云う主旨の下に計画を進めた。

◎ 都立の養護施設の中最も衛生設備の整っていると云われる都立石神井学園

◎ それとは大なる隔りのある所で生活している子供達に一日も早く快適な生活の場を——と云う事から小豆沢学園  
 ◎ 外国資本で営まれている異色のな充実した施設と思われるカソリック系私立星美学園

◎ 戦後社会問題として大きく世の関心を惹いた

◎ 混血児の生活の一断面として私立エリザベス・サンダースホーム  
 ◎ 肢体不自由児がその不



自由さを克服し、矯正しながら、やがて社会に眞立つべく努力してゐる光明小・中学校の実態の写真展示を行い、又

◎ 先の都立光明小・中学校校体の不自由児が、努力して完成させた作品——額縁、楽焼、テーブルセンター等。

◎ 都立青島中学校の、一般に無視されがちな精神薄弱児が僅かな、隠れた能力を生かし、一生懸命に、生み出した作品——手芸、木細工。

◎ 都立品川ろう学校に於ける先生の教えも耳で捉える事の出来ぬろう児が、器用に作った作品——衣服、竹細工等。

◎ 神戸市立盲学校児が、独自の感覚で物の形を捉えて、楽焼と云う形で表現した作品廿数点。

◎ 国立愛光女子学園の、かつては悪路を辿った少女が更生するべく強い意志の下に、精神治療の一助として作成した物を展示し、彼女達の生活の一端を紹介した。

以上作品及び写真を展示する事により、前述の主旨を広く一般に紹介したものである。此等の展示が出来た事は、各関係施設の快い御協力と深い御理解に依るものと、我々一同感謝してゐる次第である。

三、若葉子供会

本学科の学生が、日頃から本学附近の地域社会への奉仕として、又学生の実習として行なつてゐる若葉子供会の一面を、目白祭を通して紹介した。組織及び内容は、別面に於ける「科の動き」の項に述べてある。

(1) 全体を通して日数が足りなかつた事 (2) 日頃の研究不十分 (3) 内容が深く掘り下げられなかつた事は、科としても亦、学生として

も大いに反省したことであらうと思う。この事実を回避せず冷静に見つめて、更に日頃の努力を重ねて行きたいと思う。

展示の対象を専門家に措かず、一般家庭人とした点は大変によい思いつきであつたと思う。

母子福祉センターの研究は大いに好評を得、後日、全国社会福祉事業大会の研究會に発表する機会が得られた事は非常に喜ばしい事であつた。

今後共、関係諸氏並びに一般社会の御協力と御鞭撻を望んで止みません。

新制一、二、三回生の消息

第一回生は、クラス会を毎年五月の第四日曜に、第二回生は、五月・十月の第二日曜の二回に、又、第三回生は年一回皆が都合のよい時に開いて居る。新制一、二、三回の卒業生は、地方在住者が多く、就職面に於ては、刑務所の教護教官、工場の婦人労働者教育等、科の特色を表わした方向が多い。クラス会にも、それぞれの事情の爲、出席はなかなか大変であるが、何時も、約半数は出席者がある。そこでは、その当時の社会問題・新聞紙上のトピックス・各自の近況が主な話題となつて居る。

- 第一回生……51名卒業中就職 23名 結婚 7名
- 第二回生……70名卒業中就職 34名 結婚 9名